

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 5 部門第 2 区分
 【発行日】平成 25 年 10 月 17 日 (2013.10.17)

【公開番号】特開 2011-185437 (P2011-185437A)
 【公開日】平成 23 年 9 月 22 日 (2011.9.22)
 【年通号数】公開・登録公報 2011-038
 【出願番号】特願 2011-47009 (P2011-47009)
 【国際特許分類】

F 1 6 C 32/06 (2006.01)

F 1 6 C 29/02 (2006.01)

G 0 1 B 7/34 (2006.01)

G 0 1 B 7/06 (2006.01)

【F I】

F 1 6 C 32/06 A

F 1 6 C 29/02

F 1 6 C 32/06 C

G 0 1 B 7/34 1 0 1

G 0 1 B 7/06 C

【手続補正書】

【提出日】平成 25 年 8 月 29 日 (2013.8.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 7】

前記第 1 のスライダにおける前記第 1 の空気圧リニアガイドの受圧面積と前記第 2 のスライダにおける第 2 の空気圧リニアガイドの受圧面積とが互いに相違している請求項 1 に記載の並列スライダ装置。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 6】

【特許文献 1】日本国特許庁公開特許（特開平 1 1 - 3 5 1 8 5 7 号）公報

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 4】

上述したように、前側スライダ 4 4 と後側スライダ 5 0 とは、その各々において、各ガイドレール 4 0、4 2 を挟んだ前後両側と上下両側に各ガイドレール 4 0、4 2 を取り囲むように静圧軸受のエアギャップ G 1、G 2 が構成されているので、前側スライダ 4 4 と後側スライダ 5 0 とは互い機械的に連結されているものの、各ガイドレール 4 0、4 2 の延在方向の直進性を第 1 の空気圧リニアガイド 4 8 と第 2 の空気圧リニアガイド 5 4 によって個別に担保される。ここで云うガイドレール 4 0、4 2 の延在方向の直進性とは、前

側スライダ４４、後側スライダ５０のガイドレール４０、４２の延在方向の移動において、前側スライダ４４、後側スライダ５０上下方向の振れと、前後方向の振れがないことを意味する。

【手続補正４】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図３

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 3】

